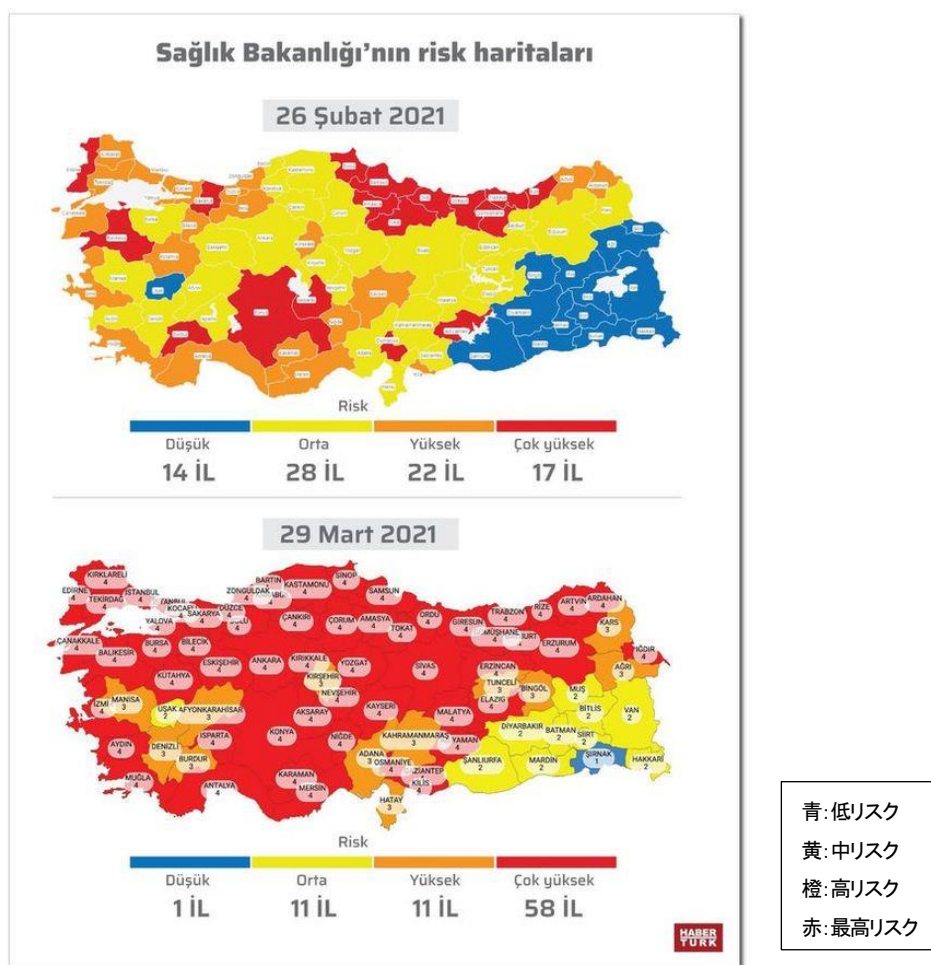


トルコの新型コロナウイルス感染症の状況 (13)

トルコでは2021年3月より感染者数の人口比により81県の感染状況を4つに分け、リスクの低い県から段階的に行動規制の緩和を開始したが、変異株の流行が急拡大したため、リスクの高い県における週末の外出制限等の行動規制を再開した。4/9現在の感染状況は、感染者数累計3,689,866人(55,941人/日、発症者数2,316人)、重症者2,615人、快復者数累計3,232,892人(37,914人/日)、死者33,201人(258人/日)、検査数累計40,689,742件(304,492件/日)で、観戦者数は世界で8番目、死者数は19番目に多い。感染者(陽性者)数は4/1に4万人、4/7に5万人を超え、また、1日当たりの死者は2021年1月は約数十名で推移していたが、現在は2020年12月と同レベルの200名以上と深刻な状況となっている。感染者の85%が変異株に感染しており、感染者数の40%を占めるイスタンブールの新規感染者は3月初旬から10倍に増加した。

1月中旬より中国製ワクチン接種を開始し、4/9までに優先接種対象者である医療従事者と高齢者を中心に人口の約20%(約1,800万人、うち740万人は2度)がワクチン接種を完了したが、感染拡大を抑えるレベルには達していない。なお、ワクチンはトルコに在留許可のある外国人も接種対象となっており、接種を済ませた邦人もいる。

4/13から開始するラマザン(断食月)は、全県においてモスクでの夜の礼拝、大勢が集まるのイフタル(断食明けの食事)禁止、飲食店はテイクアウト営業のみ、週末及び平日の21~5時は外出禁止となる(マーケット等のみ週末の10~17時は営業可)。



県別の感染状況の推移 上: 2021年2月26日、下: 3月29日 (出所: Haberturk)